



<本資料に関する連絡先>
動く→動かす(担当:稲場雅紀)
電話:03-3834-6902
メール:office@ugokuugokasu.jp
Web: http://www.sdgscampaign.net

SDGs = 「持続不能」の危機を乗り越えるため

日本

日本の危機・日本の「劣位」をどう跳ね返すか = SDGsの活用

(提案)4つの「特定優先課題」を指定

貧困・格差の拡大

地方の持続可能性の喪失

ジェンダー不平等

気候変動と災害の多発



<アウトサイド・インでやってみる>

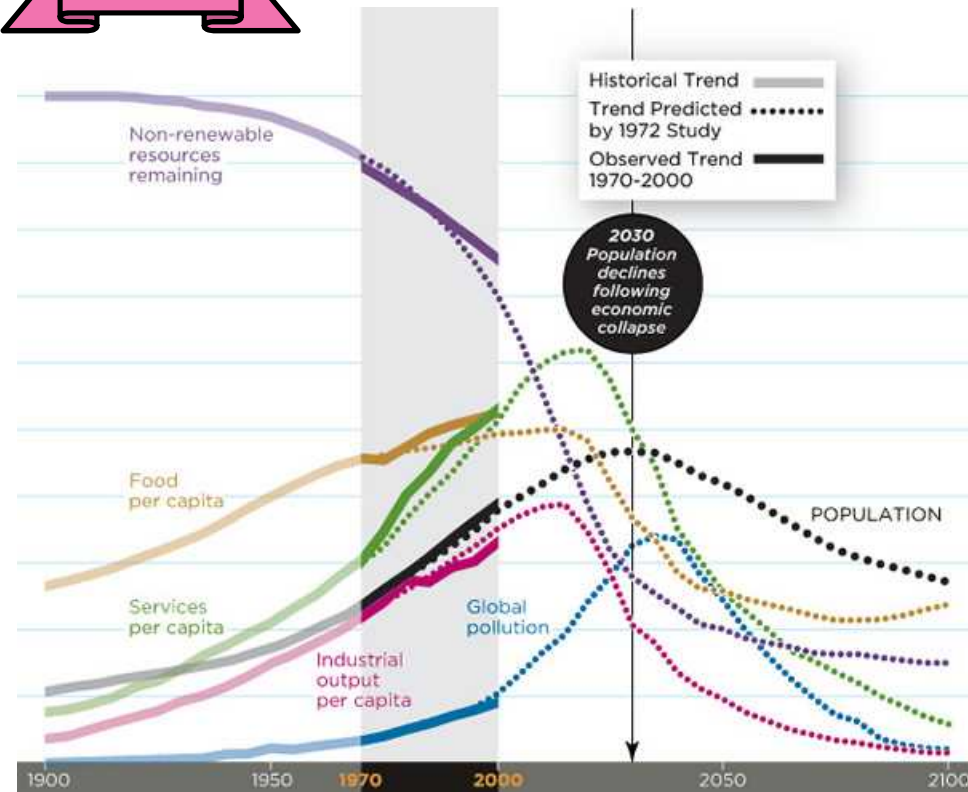
危機の全貌の把握

外部の視点で客観的に分析

期限付きの目標と指標の設定

政策総動員

世界



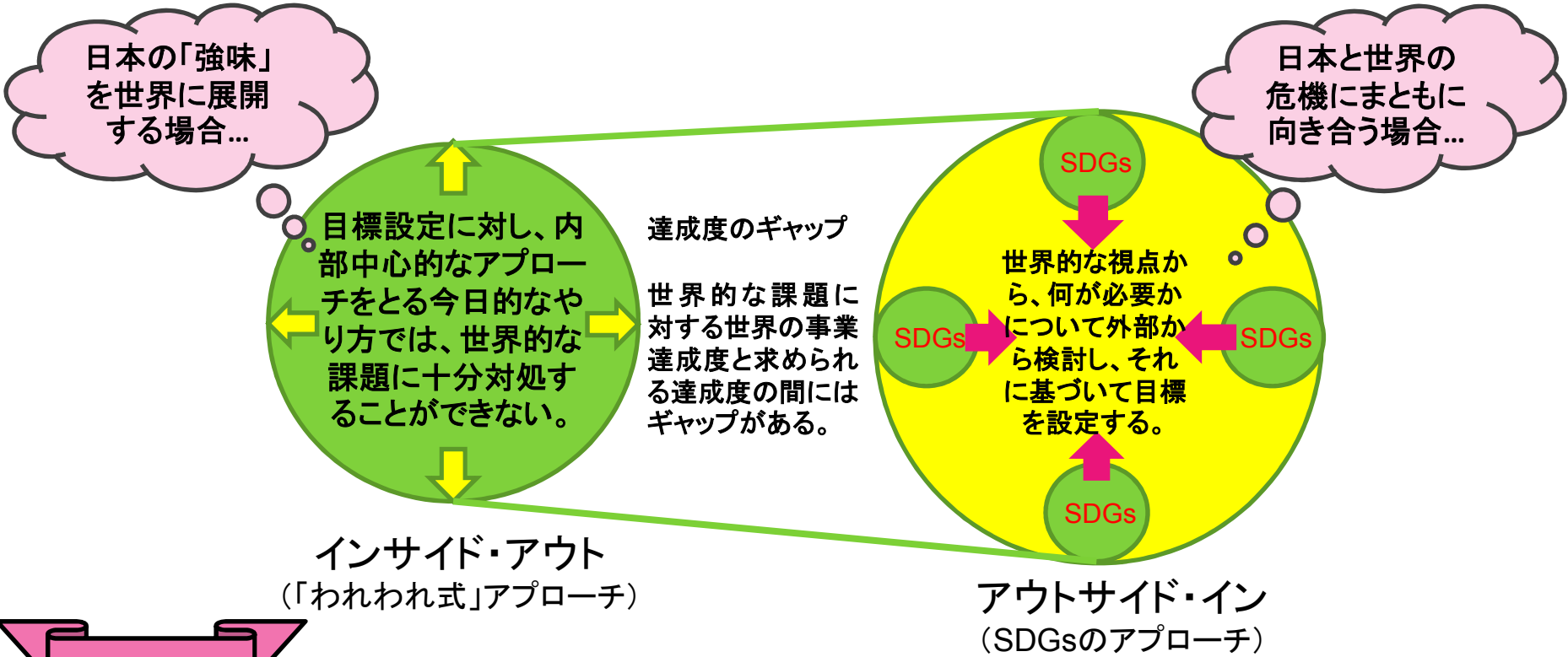
世界:気候変動を含め、「地球の限界」が明らかに→「今・ここで何が出来るか」=SDGs

危機:「なぜやらなければならないか」を示すことで、はじめて人は動く



「インサイド・アウト」と「アウトサイド・イン」の両面での取り組みを=SDGコンパス

「SDGコンパス」(国連グローバル・コンパクト他編著)「目標設定アプローチの採用」



但し、

「持続不能」の危機の深化のスピードに攻勢的に対応するには、「アウトサイド・イン」で取り組むことがどうしても必要

「指針」全体に関する 市民社会の提言5項目

課題	提言
★ 時代認識：世界・日本ともに「持続可能性の危機にある」という認識	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 序文・現状の分析において、「持続可能性の危機」に関する認識を明記。 ➤ 「持続可能性の危機克服」の観点から、より優先すべき課題を選び政策動員。
★ 「アウトサイド・イン」=危機克服に求められる達成度に基づいて目標を設定する	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「SDGsの主流化」の文言を強化。 ➤ 「具体的施策」における「グローバル目標」および「グローバル指標」の積極的な導入。
★ 「人間の安全保障」と「人権」「当事者主権」の主流化	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「ビジョン」に「人間の安全保障」を明記し、そのもとで「人権」と「当事者主権」を明確に位置付ける。
★ 指針本文と「具体的施策」の調和化	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 指針本文にある「実施のための主要原則」を「具体的施策」の指標に対応・適応させる。
★ 定期的、包括的、参加型のフォローアップ&レビュー	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「具体的施策」の進捗を予算、実績、「5つの主要原則」から参加型で評価。毎年円卓会議でレビュー、HLPFに合わせ、4年に1回の見直し。

グループ8(国際協力)に関する提言(概要)

課題	提言
<p>SDGsの達成のためには膨大な資金が必要(10兆ドル=ICESDF報告書)</p>	<p>「民間資金」「途上国の国内財源」のみならずあらゆる方法でSDGs達成のための開発資金を増額する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ (ODA) ODAの対GNI比率0.7%を目指す ◆ 航空券連帯税、金融取引税などの国際連帯税の導入により、国際的な公的資金を創出。 ◆ タックスヘイブンの取り締まりや徴税能力強化により途上国政府が開発に回せる資金の拡大
<p>すべてのODA案件におけるSDGsの主流化=案件形成・実施・評価</p>	<p>「NGO連携無償」案件に加え、技術協力、無償資金協力事業に関してもSDGsに資するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 技協・無償に関してもSDGsを要件化する。 ◆ SDGsのグローバル指標および「5つの主要原則」に基づいて実績及び効果を評価する。
<p>「だれも取り残さない」貧困解消のための支援の主流化</p>	<p>「だれも取り残さない」ことをめざす貧困解消のための援助を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 先住民、LGBT/性的少数者、障害者等、社会的脆弱性を抱え差別・偏見に直面するコミュニティ支援を重点化。日本・現地NGO・当事者団体との連携強化。 ◆ 細分化データ収集能力の強化とデータに基づいた支援。 ◆ 貧困解消の制度構築支援の主流化(公平な税制、社会保障制度の構築と運営能力の強化)